

はり ま たん けん
播 磨 探 検

2019.8.13
 287号
 えん 赤松 弘一

ミズカマキリ

(カメムシ目 タイコウチ科)
 体長44mm 呼吸管47mm

学名 *Ranatra chinensis* 英名 Water stick insect

前肢は鎌状 複眼は大きい
 触角は短くて確認できない

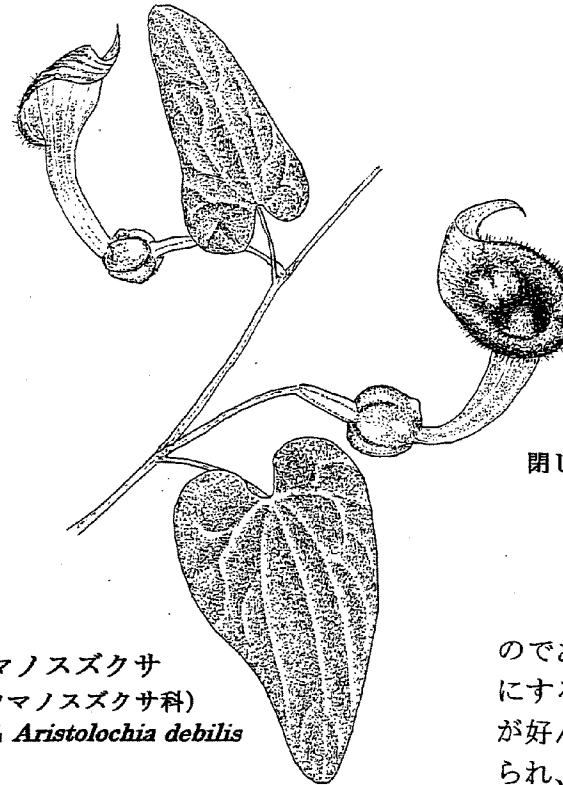
今年の近畿の梅雨入りは6月26日で、これは平年の6月7日から大幅に遅くなった。二見北小学校では7月9日にクマゼミの初鳴きを聞いた。いよいよ夏の昆虫のシーズン到来となったわけだ。同じ日の体育の水泳の時間に、5年生の男子がプール中でミズカマキリをつかまえた。たまたまプールサイドで監視に立っていた私は、佐伯先生の手のひらでうごめくそいつを見て狂喜した。プールの水面と風景の輝きが倍増したように感じた。ミズカマキリに初めて出会ったのは1992年の夏、芦屋市民プール（この時もなぜかプール）だった。六甲山麓にある芦屋市は自然環境が比較的豊かなのである。以来この珍しい昆虫に出会うことはなかった。宅地化が進む二見だが、まだまだ水田やため池や水路も多く、水生昆虫の棲息に適する環境が残されているのだろう。

ミズカマキリは前脚がカマキリのような鎌形になっているのでその名があるのだが、実はカメムシの仲間なのである。タガメやタイコウチ、コオイムシ、アメンボなどの水生昆虫もみんなカメムシの仲間で、短い針のような管状の口吻（こうぶん）を持っており、魚やカエルを鋭い前脚で捕獲して消化液を注入し、液状に解けた組織を吸うのだ。

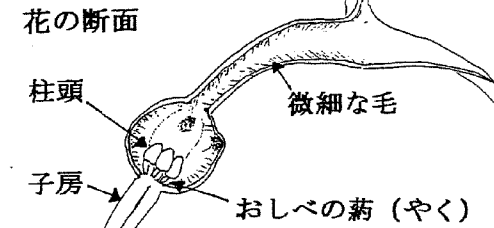
雨の後の水たまりや水を張ったばかりの水田やプールで、よくアメンボなどを見かけるが、これはその場所で発生したのではない。彼ら翅を持っているので飛来するのである。ミズカマキリも翅を持ちよく飛ぶらしい。飛行中に池やプールの水面の輝きを見つけると着水するのだろう。水中ではこの細長い身体は枯れて沈んだ植物の茎や葉に紛れるため、獲物を待ち伏せるのに適している。

ミズカマキリは両眼が横に突出した逆三角形の顔を持つが、これもカマキリに似ている。全く近縁でない種がよく似た形態をしているというのは、同じような棲息環境で同じような生態を持つために姿が似てくるというもので、収斂進化（しゅうれんしんか）という。例えば哺乳類のイルカと、魚類のサメは全く類縁関係にないが、形態は非常に似ている。海という環境で捕食生活するにはこの形が最も適しているということなのである。「まったくあんたはやるが亡くなった爺さんとそっくりだね」と言われたりするが、これは収斂進化とは言わない。

ウマノスズクサ開花 ~コバエとの駆け引き~



ウマノスズクサ
 (ウマノスズクサ科)
 学名 *Aristolochia debilis*



閉じ込められたコバエ

わが家には数株のウマノスズクサがあり、夏には奔放にツルを伸ばして繁茂する。これは10数年前に明石公園に自生していた一株を持ち帰って植えていたものである。この草には毒があるため、これを食草にする虫は少ないのだが、ジャコウアゲハの幼虫が好んで食べる。毎年おびただしく卵が産み付けられ、6月頃から白と黒のまだら模様の愛らしい幼虫（ほぼ99%の人はそう思わない）が葉を食い

荒らし、ほとんど茎だけにしてしまう。家の壁にはたくさんのサナギ（お菊虫）がついて、優雅なジャコウアゲハが羽化してくる。（なぜか今年は全くアゲハの飛来がなく、幼虫もないので、これまでになく繁茂している）

ここ数年は8月に花が咲くようになった。ウマノスズクサの花はラッパのような形で、食虫植物のウツボカズラの捕虫器官の様である。中はどうなっているのかと思い、縦に切り開いたところ、中から黒いコバエが飛び出してきた。他の花にもショウジョウバエのような小さなハエがいた。「こいつらは、食料にされかけたのか？いや、違う」プロの理科教師である私には見当がついた。「こいつらは受粉に利用されたのにちがいない」詳しく調べると、本多郁夫氏著の植物生態観察図鑑に詳しく解説されていた。その驚きの生態について、引用させていただく。『このラッパ型の花の底にはめしべの柱頭とその基部にはおしべの葯がある。株全体から出る独特の匂いに誘引されたハエはラッパの開口部から花の中に入って行く。花の内側には細かい毛が奥に向かってびっしりと生えている（確かにあった）、そのためハエは入ることはできても出ることができない。（もし他の株の花の花粉を体につけたハエが入ると、外へ出ようとあがくうちに、成熟した柱頭に花粉が付く）やがて根元のおしべの花粉が成熟してくると、花の内側の毛が縮んでハエが出られるようになる。ハエはこのおしべの花粉を体につけて花から出て次の花を訪れる。次の花でも入って出られないハエが暴れて花粉を柱頭につけて受粉が完了する』

ウマノスズクサは実にうまくハエを利用している。植物はシタタカでアル。さて受粉までは順調なのだが、種子ができることは非常にまれであるらしい。その理由はわからない。わが家の株にいつか馬の首にぶら下げる鈴の束に似た種子ができる日は来るだろうか。